

教職の特色と魅力

副学長（教授） 毛内 嘉威

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。そして、ようこそ、教職課程へいらっしゃいました。

在校生の皆さん、教職課程を継続していただき、ありがとうございます。皆さんがあつての教職課程です。今後ともよろしくお祈りします。

皆さんは、なぜ美大を目指したのでしょうか。そして、なぜ教職課程を希望したのでしょうか。美術の素晴らしさ、その魅力に惹かれ、美術（芸術）の持っている可能性に懸けたからではないでしょうか。教職の魅力とは、美術の魅力を伝えることであり、美術の可能性によって社会をよりよい方向に変えようとする力を養い、表現し伝えることかもしれません。

本学の目指す美術は、学部では領域横断、複合的視点、大学院では複合芸術を標榜しています。つまり、これを通じて従来にない新しい芸術領域を作り出そうというものです。今や美術は非常に幅広いものとなっています。現代における課題や社会問題をどうとらえ、芸術表現を通して如何にして解決していくかを模索し

ています。その意味で自由な発想と創造力をとても大事にしています。

本学の教職の特色・魅力は、先述したとおり領域横断、複合的視点、複合芸術が根本にあります。本学は、美術の全ての分野を領域横断的に学べる仕組みになっています。これは、教員になったときに大きな強みです。他の大学の教職課程と大きく異なります。

本学の学生による教育実習での授業は、とてもユニークで・斬新だと、実習校の先生方から評価されることが多いことから言えると思います。

本学の教職課程は12年目になりますが、これまでたくさんの学生が日本全国に教員として旅立ち、素晴らしい教育を展開しています。私たち教職課程を担う教員も、引き続き、皆さんと一緒にこれまでにない魅力ある授業を展開できる教職課程を目指していきます。

教員採用試験に起きていること

教員（採用）を巡っては、様々なメディアに「採用試験倍率が過去最低」「教員、なり手不足深刻」といった刺激的な見出しが躍り、“定額働かせ放題”だの“やりがい搾取”だの、負のイメージを抱かせるワードがあふれています。

それでも、本学においては、1年生の教職課程の履修者が過去最高の40名を数え、入学者の約4割に上りました。「教職入門」に先立って実施した意識調査の中で、約9割の皆さんが「社会的な意義のある、やりがいのある仕事だ」と肯定的に回答してくれたことは、履修の動機や教員の魅力を示す一つの証左ではないでしょうか。

近年、教員への関門である採用試験には、様々な変化が起きている。

第一に「早期化」。これまで7月中旬の実施が多かった一次試験について、昨年度から6月に実施する自治体が増えました。文科省は、来年度以降さらなる早期化を要請しています。このことは、教育実習の在り方など各大学にカリキュラムの見直しという課題を突

きつけるものですが、3年生で教育実習を実施する本学への影響は、今のところそう大きくはないようです。

第二に「複線化」。3年生で試験の一部を実施する前倒し受験を導入した自治体や、秋選考、冬選考により選考時期が年2回となった自治体もあります。

第三に「試験内容の変化」。これまで実施してきた「集団討論（討議）」や「一般教養（筆記試験）」を廃止するなど、受験者の負担軽減を図る自治体が出てきています。

子どもたちの成長を肌で感じ、自らも成長できるばかりでなく、学び舎を巣立った後も、お互いに人としての関わりを持ち続けられることが教員の魅力の一つです。「教職課程の履修＝教員を目指す」とは言えないまでも、一人でも多く“教員を仕事に”と考える人が増えることを願っています。

本年度も、本学第六の“人づくり専攻”（野々口先生）として、教職課程の先生方とともに、教職支援室を挙げて、皆さんの学びを支えていきます。

教員採用試験対策セミナーは月曜5限に開催中！

展望 各学年における教育実習関連科目の取組

1年生

学生数：40名

今年度、教職課程に履修登録した新生は40名で、過去最多の人数となりました。教職課程の担当者としては、このように多くの学生が教職に関心を寄せてくれていることをとてもうれしく感じています。

さて、教職課程には学内で学ぶ多くの科目の他に、実際の学校に出向いて見学や体験を行い、実践的指導力を養う「教育実習関連科目」があります。1年生の教育実習関連科目としては、前期の「教職入門」と後期の「学校体験実習1」があります。

「教職入門」は、文字通り教職課程入門期の科目で、秋田市立日新小学校と秋田公立美術大学附属高等学院での見学や体験を通して『教職の魅力とは何か?』『美術教育の意義とは何か?』という2つのテーマを追求していくことになります。

後期の「学校体験実習1」では、本学の隣の秋田西中学校を訪問します。生徒たちの登校時や先生方の打合せの様子、実際の授業や休み時間中の様子まで丁寧に観察する実習です。教わる側から教える側に視点が変わることによって見えてくるものを大切にしたいと願っています。



教職入門（日新小訪問）

2年生

学生数：25名

2年生は履修科目が多くてたいへんですが、どれも教員に求められる知識や技能を身に付ける上で重要であり、次年度の教育実習に直結する学びになります。ですから、油断することなくしっかり授業に参加して、確実に単位を修得してほしいものです。

教育実習関連科目としては、社会福祉施設で5日間、特別支援学校で2日間、計7日間の実習を行う「介護等体験」と、実際の中学生や高校生を前に美術の授業を行う「学校体験実習2」があります。実習校は秋田市立山王中学校、秋田県立秋田南高等学校、秋田県立新屋高等学校の3校を予定しています。

学校体験実習2はグループで行う授業になりますが、来年の教育実習は一人で授業をやることとなりますので、来年度の教育実習で授業をしている自分の姿を思い描きながら、積極的な姿勢で取り組んでほしいと願っています。



学校体験実習2

3年生

学生数：34名

3年生はなんとと言っても教職課程最大の山場である「教育実習」が目前に控えています。実習校は基本的に一人一人違いますし、実習期間もバラバラです。（一番早い実習生は5月2日から、一番遅い実習生は10月21日から）ですから、これまでとは異なり、個人の力量が問われることになります。

ただ、皆さんには1・2年生の授業や実習で身に付けた多くの知識や経験、また担当教員等との面談を含む「教育実習事前指導」で得た多くの学びが、財産となって蓄積されているはずですので、それらをフルに生かして、自信をもって教育実習に取り組んでほしいと思っています。

実習校の先生方が実習生に期待しているのは、ベテラン教師のような上手な授業ではありません。実習を通してより多くのことを学びたいという積極的な姿勢と、生徒たちと真正面から向き合おうとする真摯な態度です。34名の教育実習生一人一人の健闘を心から願っています。そして、願わくば、「絶対に教師になりたい!」という思いを強くして、教育実習から帰ってきてほしいものです。



教育実習

4年生

学生数：19名

4年生の多くの学生にとって、教職課程で唯一未履修の科目は「教職実践演習」だけではないでしょうか。この科目は、教育実習では学ぶことができなかった内容や喫緊の教育課題への対応などが主な学習内容で、2コマ連続（計180分）の授業となっています。また、教育現場をよく知る様々な分野の専門家や就職して間もない年の近い先輩たちにも授業で話をしていただくなど、卒業後すぐに教員となっても困らないような内容にもなっています。

後期の授業が始まる頃は、教職以外の道に進むことが決定している学生もいることでしょう。ですから、そのような教職に就かない学生にとっても役立つ内容になるよう工夫していきます。

教職課程最後の科目にしっかり臨み、有終の美を飾ってほしいと願っています。



教職実践演習

教育実習関連科目担当スタッフの自己紹介



教授（副学長）毛内 嘉威

青森県つがる市出身です。学生時代は、JICAに就職するという目的もあり、発展途上国を中心に放浪（游学）をしていました。当時の日本はバブルで、尚且つ円高だったこともあり、YMCAを活用して世界のあちこちを廻っていました。

大学卒業後、紆余曲折を経て、通信教育学部に入り直し、小学校教員免許状などを取得し教員になりました。教員になってから、倫理・哲学・道德教育の分野に大きく舵を切って、現在に至っています。

好きなことは、困難を困難とも思わずに続けられるものです。皆さんには、美術の素晴らしさ・魅力の再発見につとめ、美術の教員免許状取得のために、頑張ってもらっています。スタッフ一同、皆さんの力になれるよう精一杯頑張ります。



教授 野々口 浩幸

本学に奉職して7年目になります。出身は青森県八戸市です。もともと青森県の高校教員として社会科（地歴科、専門は日本史）を教え、陸上競技部と硬式テニス部の顧問をしていました。教育課程の講義では、理論だけでなく、自らの実践、経験、想いを伝えるとともに、教員としてだけでなく、人間として成長し生きていくために役立つ内容にしていきたいと考えています。

教職課程は「人づくり」専攻です。人は一人では生きていけませんし、幸せになるために生まれてきたのです。そのために自分を大切に、人を大切に生きていくという自己肯定感を大切にしています。どうぞ、本学での4年間を貴重な青春の1頁としてたくさん書き込んでください。



教授 尾澤 勇

美術科教育、工芸科教育、工芸演習Aを担当しています。東京都出身で、中学校、高等学校教諭を経て本学開学と同時に赴任しました。美術や工芸の教育に携わりながら、自らも金属工芸の制作活動を行い、その

成果を学生に還元してきました。

美大での学びは、自ら表したいことを発見し、工夫しながら自己表現していくことが大切です。そのことは自らに対しても、そして（教育実習先の）生徒に対しても同様です。自分を見つめつつ、他者の目線で考え実行する多くの体験を通して学ぶことができるのが教職課程です。ここで出会った仲間や教職員のほか、教育実習等でお世話になる方や生徒さんなど、すべてがあなた自身を成長させる先生です。私も皆さんと共に成長していきたいと思っています。



助教 大関 智子

私の専門は日本画で、作品制作や絵馬などの地域資料に使用された顔料の調査研究を行っています。教職課程では実技系の演習科目のほか、日本画演習や基礎演習等の科目を担当しています。

私の密かな毎日の楽しみは、学生の皆さんと何気ない会話をする事です。自分が足を踏み入れたことのない世界を知り、思いもよらない視点に気付かせてくれます。最近、とある整髪料の種類とヘアメイクのテクニックを教わりました。

教職課程のプログラムでは、人を育てる職業であるがゆえに、他者とのコミュニケーションをととても大切にしています。ぜひ、たくさんの人との出会いを楽しんでください。きっと大学生活がより鮮やかで豊かなものになるはずですよ。



特任教授 齋藤 透

齋藤透（さいとう とおる）です。本学勤務4年目になりました。もともとは中学校の社会科の教員で、部活動はずっとサッカー部を担当していました。美術は苦手でしたが好きな教科でした。

今、私が教育実習関連科目を通して常に意識していることは、学生たちが教職に関して抱いているであろう負のイメージを越える教職の魅力ややりがいを伝えていきたいということです。特に、3年生での教育実習を終えたときに、「教員って楽しい！苦労も多いけど、それ以上にやりがいがある仕事だ！」と心から感じられるように、学生たちの学びを支援していきたいと思っています。その上で、せっかくの教員免許をしっかりと生かす人生を本気で考えてほしいと願っています。



特任教授 渡部 克宏

大学はこの社会の中でもっとも自由なところである、と私は思っています。そして、自分の経験上、この4年間は、皆さんの人生の中においても、もっとも自由な時間であると、自信を持って言い切ることができます。

そういうところが教師を養成する場になっているということに、教育の本質や教師の根源的なあり方に関わる大切な意味があると私は考えています。ある文部科学省の元役人がこんなことを話していました。「戦後、教員養成を大学で行うことになったのは、学問の自由や精神の自由を保障されているところでなければ教員は育たないという考えが根本にあるからだ」。

皆さんと一緒に、教育の未来、学校や教師のあり方、そして美術教育について考え、議論していくことを楽しみにしています。よろしくお祈りします。

教育実習関連科目担当スタッフの自己紹介



特任教授 嶋崎 公人

春は出会いの季節です。皆さんとの出会いに感謝します。

さて、世の中には第一印象がとてもよい人がいます。柔和な人、爽やかな人、明るい人、面白い人、笑顔が素敵な人、話が簡潔明瞭な人、はきはきしている人、礼儀正

しい人、頷きながら話を聞いてくれる人などでしょうか。見た目の善し悪しは変えようがありませんが、話し方や聞き方、物腰や振る舞いは自分次第です。出会った時によくない印象をもたれるより、「この人、感じのいい人だなあ」って思われる方がいいですよ。

教職課程の学びには、実習先の児童生徒や先生方など、たくさんの出会いがあります。皆さんには一つ一つの出会いを大切にしてほしいと思います。



特任教授 加賀谷 亨

あなたはバスに乗っています。駅前で友達と待ち合わせ、もうすぐ停留所です。ところが、財布を忘れたことに気がつきます。すると、見知らぬ乗客が「これ、どうぞ」と運賃を出してくれました。

あなたが感じるのは「飛び上がるほどうれしい」でしょうか。それとも「涙が出るほどうれしい」でしょうか。自分がピンチのときに、見ず知らずの方が助けてくださったのですから、当然「感謝」の思いがわき上がるはず。とすれば、皆さんには「涙が出るほどうれしい」と感じてほしいところです。このとき、いわゆる「超絶ラッキー！」といった心情を表す「飛び上がるほどうれしい」を使ってしまうようでは…。「言葉は心」。心を伝えるために、ふさわしい言葉をたくさん身につけたいものです。

本年度もよろしくお願いいたします。



特任教授 谷村 格

本学の基本理念の筆頭に「新しい芸術領域の創造に挑戦する大学」とあるように、企業にも基本理念があります。「走る歓び」をブランドエッセンスとしている自動車メーカーは、「挑戦することを真剣に楽しみ、独創的な道（ど

う）を極め続ける」を掲げています。言葉通り2020年、MAZDA3がWorld Car Design of the Yearを受賞しました。Car as Artというマツダデザインの哲学を追求し、世界で高評価を受けました。デザインの担当者は「なぜ美しいと感じるのか、その根拠に向き合うことが大事だ」と語っています。教職を目指す学生が「挑戦」を意識し、教えて育てるといふ崇高な理念に基づき、教職課程に真摯に向き合い、真剣に楽しく受講することを期待しています。



助手 日野 沙耶

助手の日野沙耶と申します。絵画制作や日本画の材料・技法史、保存修復の研究を行っています。教職課程では授業サポートを行います。美術の授業づくりの相談などがありましたら、いつでも助手室へお越しください。私が美大へ来た頃はコロナ禍でしたが、昨年

からようやく通常通りの授業が行えるようになりました。振り返ると、教職員や学生の皆様の適応力があつたからこそ乗り越えられたように思います。状況が困難になっても、その中で出来ることは何かを考えることは、今後の生活、さらには自身の制作活動にも重要なのだと思います。

日々の変化の中、それに適応しながら充実した大学生活を送れるよう願っています。



助手 竹本 悠太郎

助手の竹本悠太郎（たけもと ゆうたろう）です。出身地は兵庫県三木市です。三木市は西日本有数の金物の町で、彫刻刀や鑿などの生産で知られています。高校を卒業してからは、長野県で4年、オーストラリアで1年、新潟県で5年を過ごして秋田県にきました。18歳で地元を離れたときには、まさか秋田県にまで日本列島を北上するとは思っていませんでした。制作と研究を続けていたらいつの間にか、いろいろな縁が生まれて秋田で生活することになりました。この先、みなさんにも様々な人やものとの出会いがあるはず。何か少しでも興味を惹かれたときは、ぜひチャレンジしてみてください。いい縁が生まれるかもしれません。制作や読書、アルバイトや旅行など大学生活を存分に満喫してください！！

